

「明るい部屋」「キラータイトルと魔法の言葉」「NITRATE」「G線上のエリア」

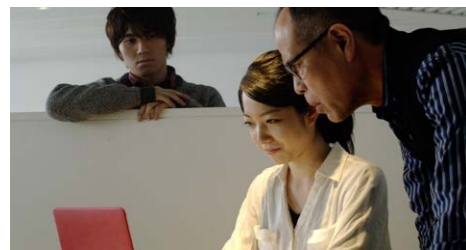
映像学科 山川直人 Naoto Yamakawa

映像学科 高山隆一 Ryuichi Takayama



工芸大学各学科のエピソードを元に作られた短編映画「KOUGEI 学科シリーズ」、4作一挙上映です！

高山隆一監督作品「明るい部屋」(2016 / 15分) 写真学科ストーリー：写真学科を舞台に機材センター女子職員と留年生との成長物語



山川直人監督作品「キラータイトルと魔法の言葉」(2016 / 9分) ゲーム学科ストーリー：新しいゲーム開発を模索しながら教授と学生の間で繰り広げられる壮絶なバトル！

高山隆一監督作品「NITRATE (ナイトレート)」(2017 / 28分) 映像学科ストーリー：映像学科を舞台に卒業制作「シン・ジャンヌ」に挑む女子学生の物語。題名は「可燃性フィルム」の意味。

山川直人監督作品「G線上のエリア」(2017 / 11分) インタラクティブメディア学科ストーリー：笑明ロボット発明者の展示作品創作の苦悩と克服を描くファンタジックストーリー！



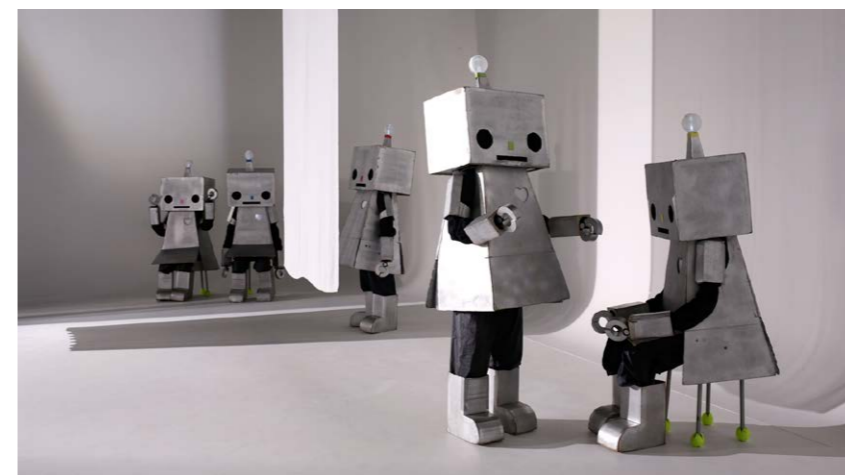
「明るい部屋」



「キラータイトルと魔法の言葉」



「NITRATE」



「G線上のエリア」



山川直人・1957年愛知県生まれ。早稲田大学卒業。学生時代はほぼ毎日映画を見て、サークルで8ミリフィルムによる自主映画を作り始める。いくつかの監督作品がPFF等のコンテストで入賞し、エジンバラ、ベルリン、ニューヨーク等の国際映画祭で招待上映される。1986年に劇場映画デビューし、映画監督する一方で、1993年にはアメリカのサンダンス・インスティテュートにて映画作法を学ぶ。90年代半ばからは、テレビの仕事が多くなり、ドラマ、CM、ドキュメンタリー番組、ミュージックビデオ等、多方面に仕事をする。2000年以降は、これに加えてウェブ・コンテンツ仕事も多くなっています。



高山隆一・過去の名作としての日本映画ではなく、不調と言われている現在の日本映画を観続けます。面白くないと言われている日本映画。しかし、きちんと観ている人は少ないはず。イメージとしてではなく、実際に目で確かめから語る姿勢を持ちたいと思っています。今でしか語れない日本映画もあるはず。小津、黒澤以外の日本映画を語りたいと考えています。もう一つの研究課題としては映画教育の方法論。映画学校のカリキュラムや教材について、外国の映画製作の入門書、他芸術の教育方法との比較を少しずつ調べ始めています。教師志望であった自分をしては映画を如何に教えるかという点に大変興味があります。1963年埼玉県生まれ。日本大学芸術学部映像学科卒業、同大学院芸術学修士課程修了。